

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

EAAA2023 – 東アジア人類学会 –

(East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2023)

2023 年 10 月 6 日（金）～ 8 日（日）香港

国際コミュニケーション学部 伊藤 梢

北 陸 大 学 紀 要
第56号(2024年3月)抜刷

外国学会発表報告

EAAA2023 - 東アジア人類学会 -

(East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2023)

2023 年 10 月 6 日 (金) ~ 8 日 (日) 香港

国際コミュニケーション学部 伊藤 梢

発表題目 : Living Healthier between Nature and Pseudoscience: Shizen-shoku
(Natural food) movement in Japan and its entanglement with pseudoscience

報告者は、2023 年 10 月 6 日から 8 日にかけて、香港・沙田区にある香港中文大学において、台湾・香港・中国・韓国・日本の東アジア 5 カ所に毎年持ち回りで開催される East Asian Anthropological Association の年次大会に、発表者及びセッションのチェアパーソンとして参加した。パンデミックを経て、昨年対面での開催を再開しており、発表者としては 3 度目の参加になる。

本学会は東アジアにおいて人類学的実践を行う研究者の相互交流の場として 2008 年に初めて開催された。これは欧米を軸に発展してきた文化人類学という学問分野に対する「周縁」からのポストコロニアルのアプローチでもあり、開会時のラウンドテーブル “East Asian Anthropology Past, Present and Future: Where have we been? Where are we going?” では創設メンバーによるこれまでの振り返りが行われ、改めて本学会の意義が示された。



今回の全体としてのテーマは “East Asian Anthropology in a Roiling World: Pandemics, Politics, Potentials” と題されており、多様なテーマのパネル発表や個人発表セッションが混在していたが、報告者が振り分けられたのはプログラム 1 日目の Food & Body というセッションであった。非常に広範なテーマであり、中国でのヨガブームに関する研究や「香港らしい」食とアイデンティティの形成についてなど、大学院生を含む各国の参加者がそれぞれ食や身体に関わる研究の報告を行い、最後に全体でのディスカッションが行われ、報告者は司会とファシリテーションを行った。

報告者は “Living Healthier between Nature and Pseudoscience: Shizen-shoku (Natural food) movement in Japan and its entanglement with pseudoscience (自然と擬似科学の狭間で健康に生きる：日本における自然食運動とその擬似科学との絡み合い)” というテーマで発表を行った。これは自然食品店に食品以外の科学的根拠に疑いのある商品が並んでいることから着想を得たものである。日本では、「自然食」は、より健康的な食事に興味を持った人を指す、あいまいだが興味をそそる言葉である。この概念は、食品汚染や毒性のある添加物が大きな社会問題となった 1960 年代後半に広まった。その意味で、近代において弁別された科学と自然は明確に区別され、注意深く排除されなければならないものとなる。それ以来、増え続ける自然食専門店は、「へ

ルシー」で「ナチュラル」な食材の聖地となったが、そこには上述の擬似科学的根拠による製品が溢れていることも事実である。本発表は、そこに自然と科学の二分法では捉えきれない生の形と新たに生み出されていく自然があるのではないかと構想のもと行った調査の報告である。会場からは西洋知と東洋知のハイブリッドの現状に関する質問や、自然食とジェンダーの連関、自然食家庭で育った第2世代の現状に関する質問などを受け、今後の研究に新たな展望を抱くことができた。



また、他のセッションにも参加し、台湾での園芸療法を研究する医療人類学者と知己を得た。植物と人間の関係を考察する上で非常に刺激的な発表であり、今後交流を深めていきたい。以上のように、発表者としても聴講者としても有意義な学会参加であった。

最終日は台風に見舞われたため残念ながら学会はオンライン開催となったが、午後には希望者のみのエクスカッションが非公式に開催されたため、そちらにも参加した。今回のオーガナイザーでもあり、重慶大廈で長年に

渡って調査を続け「下からのグローバリゼーション」に関する研究の第一人者でもあるゴードン・マッシューズ教授による重慶大廈ツアーでは、アフリカを始めとする世界各地から集まる零細商人たちの実際の様子を、解説を交えながら目の当たりにすることができた。

